

キヤノン初の 8K 放送用ズームレンズ 2 機種を発売

キヤノンは、1.25 型センサー搭載の 8K 放送<sup>\*1</sup> 用カメラに対応するズームレンズの新製品として、放送用フィールドズームレンズ“UHD-DIGISUPER 51”と、放送用ポータブルズームレンズ“7×10.7 KAS S”を 2019 年 12 月上旬より順次発売します。



UHD-DIGISUPER 51



7×10.7 KAS S

新製品 2 機種は、キヤノンの光学技術を結集して開発した 8K 放送用ズームレンズです。近年、国際スポーツイベントの中継やドキュメンタリー制作などにおいて、8K 放送機材の導入が始まり、超高精細な映像を世の中に届けるために、入力、伝送、出力において、必要な技術開発や規格に適応した機材の安定供給が求められています。キヤノンは、8K の超高解像を実現する放送用ズームレンズを新たにラインアップに加え、映像の高画質化ニーズに応えます。

■ 高倍率・長焦点距離の 8K 放送用フィールドズームレンズ

新製品“UHD-DIGISUPER 51”は、画面の中心部から周辺部に至るまで 8K 放送用カメラに対応する優れた光学性能を達成しています。広角端 15.5mm から望遠端 790mm の世界最長<sup>\*2</sup> 焦点距離により、世界最高<sup>\*2</sup> の 51 倍ズームを実現したキヤノン初の 8K 放送用フィールドズームレンズです。高倍率を実現しながら、従来の 2/3 型 HDTV や 4K 放送用フィールドズームレンズと同等の操作性を確保し、撮影スタイルを変えることなく、8K 映像の撮影・制作へ移行できます。屋内外でのスポーツ中継や中継車など幅広いシーンにおいて、臨場感のある高精細な映像の撮影を実現します。

■ 世界初<sup>\*3</sup> の 8K 放送用ポータブルズームレンズ

新製品“7×10.7 KAS S”は、焦点距離 10.7-75mm をカバーする、7 倍ズームの世界初の 8K 放送用ポータブルズームレンズです。画面中心から周辺部の隅々まで、8K 放送用カメラに対応する解像力とコントラストを持ちながら、従来の 2/3 型 4K 放送用ポータブルズームレンズと同等の操作性を実現しています。肩担ぎ撮影や機材運搬の際など、放送用機材に求められる機動性を確保しており、ドキュメンタリーや各種イベント撮影などの映像制作や、報道などにおけるさまざまなニーズに応えます。

製品名	希望小売価格	発売日
UHD-DIGISUPER 51	オープン価格	2020 年 4 月上旬
7×10.7 KAS S		2019 年 12 月上旬

※1 フル HD の 16 倍、4K の 4 倍となる約 3300 万画素の画素数を有する映像規格の放送。

※2 1.25 型センサー搭載の 8K 放送用カメラ対応フィールドズームレンズにおいて。2019 年 11 月 6 日現在。キヤノン調べ。

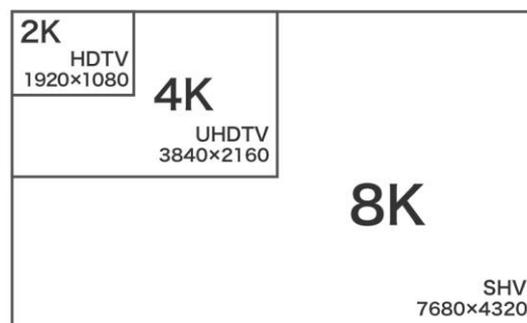
※3 1.25 型センサー搭載の 8K 放送用カメラ対応ポータブルズームレンズにおいて。2019 年 11 月 6 日現在。キヤノン調べ。

- 一般の方のお問い合わせ先 : キヤノンマーケティングジャパン株式会社 03-3740-3304 (直通)  
イメージングソリューション営業部
- 放送用・業務用映像機器ホームページ : [canon.jp/bctv](http://canon.jp/bctv)

## <UHD-DIGISUPER 51 の主な特長>

### 1. 8K 放送用カメラに対応する光学性能

- ・キヤノンの光学技術を結集し、レンズの最適配置を行うとともに、部品精度や組み立て精度の誤差を極限まで抑制することで、ズーム全域で画面中心から周辺まで高い解像力とコントラストを達成。
- ・大口径非球面レンズの採用と、蛍石、UD レンズを最適配置することにより、色収差を補正し、画面の隅々まで優れた色再現性を達成。
- ・レンズのコーティング技術や鏡筒内面の反射を防ぐ設計により、フレアやゴーストの発生を抑制。HDR<sup>※1</sup>や WCG<sup>※2</sup> 映像の撮影時でも、階調豊かで高品位な映像を撮影することが可能。



解像度の比較 (8K は現行のフル HD の 16 倍)

※1 High Dynamic Range の略。映像の明部と暗部の輝度差 (ダイナミックレンジ) を向上させる技術。

※2 Wide Color Gamut の略。映像の色域 (カラーガンマ) を広げる技術。

### 2. 望遠端 790mm の世界最長焦点距離と世界最高倍率の 51 倍ズーム

- ・1.25 型センサー搭載の 8K 放送用カメラ対応フィールドズームレンズとして、広角端 15.5mm から望遠端 790mm の世界最長焦点距離により、世界最高倍率の 51 倍ズームを達成。
- ・1.5 倍のエクステンダーをレンズ本体に内蔵し、ズーム域を 15.5-790mm から 23.3-1,185mm に切り替え可能。また、エクステンダー使用時も 8K カメラに対応する高い光学性能を実現。

### 3. 従来の 2/3 型 4K 放送用フィールドズームレンズと同等の操作性

- ・高倍率と 8K 放送用カメラに対応する光学性能を確保しながら、従来の HDTV や 4K 対応放送用ズームレンズと同等の機動性と運用性を確保。従来の撮影スタイルを継承しながら、8K 映像の撮影・制作への移行が可能。

## <7×10.7 KAS S の主な特長>

### 1. 8K 放送用カメラに対応する光学性能

- ・大口径非球面レンズの採用と、高い光学シミュレーション技術に基づく最適な光学配置により、球面収差やコマ収差などの諸収差を抑制し、広角から望遠までのズーム全域はもちろん、画面の中心部から周辺部に至るまで 8K 放送用カメラに対応する解像力を維持した光学性能を実現。
- ・フレアやゴーストの発生を抑制。HDR や WCG 映像の撮影時でも、階調豊かな映像表現が可能。

### 2. 幅広い焦点距離を持つ 7 倍ズーム

- ・8K 放送用カメラに対応する光学性能を持ちながら、焦点距離 10.7-75mm、7 倍ズームの幅広いズーム域で様々な撮影シーンにおける撮影が可能。

### 3. 従来の 2/3 型 4K 放送用ポータブルズームレンズと同等の操作性

- ・8K 放送用カメラに対応する光学性能と 7 倍ズームを備えながら、質量約 3.09kg の小型・軽量を実現しており、肩担ぎも可能。機材運搬の際など、放送用機材に求められる機動性を確保。
- ・2/3 型 4K 放送用ポータブルズームレンズで実績のある高分解能 16bit 絶対値エンコーダーを採用した高機能デジタルドライブユニットを搭載。

## <ご参考：4K・8K 放送用レンズのラインアップについて>

キヤノンは、世界最高<sup>※1</sup>倍率 6.7 倍を実現した国産初<sup>※1</sup>の放送用ズームレンズ「フィールドズーム IF-I 型」(1958 年発売)から半世紀以上に渡り、高性能レンズを通じて映像業界のイノベーションに貢献してきました。4K・8K 化という大きな変革期を迎えた今も、その姿勢に変わりはなく、たゆみない研究から生まれた最先端の光学技術と、メカニカル技術、材料工学、生産技術を融合し、厳しい評価試験を経て操作性と信頼性を確立しています。

より美しい映像を求め、見えなかった世界を目にしたいという人の願いは不変です。キヤノンは、その願いと、4K・8K 化という時代の要請に、先進のレンズテクノロジーで応えるとともに、業界最多<sup>※2</sup>の 4K・8K 放送用レンズラインアップのさらなる拡充を進め、制作現場の多様なニーズに応えていきます。

※1 1958 年発売当時。キヤノン調べ。

※2 2019 年 11 月 6 日現在。キヤノン調べ。

## <ご参考：展示会への参考出展>

2019 年 11 月 13 日(水)から 15 日(金)までの 3 日間、幕張メッセ(千葉市美浜区)で開催される国内最大の放送・映像制作機器の展示会「2019 年国際放送機器展 (Inter BEE 2019)」のキヤノンブースにおいて、“UHD-DIGISUPER 51”と“7×10.7 KAS S”を展示します。

## <放送用レンズの市場動向>

日本や欧米諸国では、デジタルテレビ放送の普及に伴う放送機器の HD 化がほぼ完了し、日本国内では 2018 年 12 月より「新 4K8K 衛星放送」が開始され、4K・8K 対応機材の導入がさらに加速しつつあります。一方、新興国では、今後デジタル放送への完全移行が予定されている国や地域も多くあり、HDTV 放送用機材の需要も継続して見込まれるとともに、4K・8K 放送への関心も高まっています。(キヤノン調べ)

## <主な製品仕様>

製品仕様の詳細は、ホームページをご参照ください。